

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0490300027		
法人名	株式会社 サンテック		
事業所名	清水沢あさひ園	ユニット名	1階
所在地	塩釜市清水沢3丁目11-31		
自己評価作成日	平成 24 年 12 月 8 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・毎朝、基本理念の唱和と毎月、交代でつくり上げた介護の重点に添った支援を行っております。 ・恒例の夏祭まつりには、ご近所の方々や他事業所の方、家族の方々に参加して頂き交流を図っております。また、家族参加のもとで日帰り温泉旅行を行い、いつもと違った一日を過ごしていただいております。災害時避難訓練は、法定訓練の他に独自の訓練を行い、安心して暮らしていただけるよう努めております。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成 25 年 1 月 22 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所基本理念の唱和と運営理念「奉仕・感謝・謙虚」を掲げて実践している。職員の気づきやアイデアに対して社長も参加する管理者会議を開き一つ一つ丁寧に検討し妥当であれば速やかに対処している。其のことが職員全体から大きな活力を引き出し、今後更なるケアサービス向上への道筋が予想できる。3ヶ月1回のモニタリングとセンター方式の「24時間シート、私の姿と気持ちシート」で介護計画を作成している。家族は介護計画の説明や話し合いがあることに高い評価をしている。災害対策も地域の人たちに参加してもらい年2回実施し、災害時に落ち着いて誘導できる努力をしている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2 自己評価および外部評価結果(事業所名 清水沢あさひ園) 「 ユニット名 1階 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員でつくり上げたものを朝のミーティング時に唱和をおこない、共有し、理念に添ったケアにあたる事の確認を行っている。年度初めには全職員で理念の見直しを行っている	全体会で決めた今年度の事業所理念「笑顔の和・チームの和・地域の和」を朝礼時、唱和、意思統一し実践している。更に一月のスローガンとしてノロウイルス等防止の「手洗い」を奨励している	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、盆踊りやおまつりのイベントに招待されたり、子供神輿に立ち寄っていただいたりしている。また事業所の夏まつりには地域の方々に参加していただき交流を深めている	入居者2名職員4名町内盆踊りに参加した。10月の秋祭にも参加した。子供みこしでは歌を歌ったお礼として、おひねりのパフォーマンスをし喜ばれた。更に地域の人から毎年野菜、味噌、干し柿などの差し入れがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方から認知症に対する質問や相談があった場合、相談や助言にあたっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括センターの方にも参加して頂き、事業所の報告、質問、意見や外部評価の結果報告、質問などをいただき運営サービス質の向上に努めている	運営推進会議は年6回地域包括職員、町内会代表、民生委員、家族会代表、職員が出席し事業所の状況報告、行事等の話をし活発な意見交換をはかり、より一層良質なケアの向上に貢献している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定更新時や認定情報申請時、入居者個々の状況報告相談をおこない、適切なアドバイスをいただきケアのサービスに取り組んでいる	12月入居希望者の生活保護申請で市の担当者と何回か折衝した結果入居が決まり、本人は安心して生活している。お陰で市の担当者から逐次適切なケアサービスのアドバイスを受ける事が出来た。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昼間の玄関施錠は行わず、身体拘束による弊害を、全職員での学習会をとおして認識し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	マニュアルを用いて年2回全体会議で勉強会をしている。昨年12月の入居された方は外出傾向があり、兆候を察知した職員が共に付き添い支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者施設での身体的虐待、ネグレクト、心理的虐待、経済的虐待等の要因防止の外部研修を受け、施設内学習会をとおし、職員間で見過ごされないよう防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内代表が外部研修をうけ、全体会議でフィードバックの形で全体会議の学習会を行って活用できるようにしている。成年後見人制度利用については、個々に連絡、情報提供しながら支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービスの内容や、契約事項、重要説明事項は、納得されるまで説明させて頂き、理解・納得をいただいている。改訂された時は家族会で説明を行い、出席出来なかった家族には、文章で報告・理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各階に意見箱を設置し、入居者様、ご家族、訪問者の意見を伝えてもらえるよう配慮し、職員会議、運営推進会議で報告、意見を求め運営に反映できるよう努めている。	苦情処理設置委員会で出来るだけ速く苦情を把握し対処・解決している。家族会での提案で避難用具の担架を購入した。運営推進会議で提案を受け2月中にハッチ式避難具を購入の予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見がでた時は、管理者がとりまとめ、週1回の管理者会議の際に報告したり、代表者からの職員に対し意見、提案、希望を求める機会があり反映できるように努めている。	社長、副社長、事務担当も加わった7人構成の管理者会議は毎週土曜日開かれるが、ここで職員要望の車椅子用体重計購入、職員親睦の場の設置や食事代負担軽減などの提案が認可された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ほぼ毎日、代表者の訪問があり、ミーティングに参加し職員の勤務状況、取り組みを把握し、やりがいをもって働けるよう環境・条件整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員にあった外部研修に参加し、職員全体会議でフィードバックし、全職員が学習できる形をとり、トレーニングしながらスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協ブロック集会、地域ケア会議に参加し学習会、情報交換を行い、サービスの質向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申込時の家族情報、居宅ケアマネの情報に基づき自宅訪問し、お茶飲み話から本人、家族の要望に耳を傾け、入居時は自宅訪問をした職員が夜勤となり、安心して暮らせるための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時に園内の生活状況を観て頂いた上に、本人、家族様の思い要望を傾聴し、サービス内容・重要説明事項を分かり易く説明し、納得して頂き入居初はコミュニケーションを密にして関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談、申込み時から本人、家族様の思い要望を傾聴、検討し導入を見極め、主治医療機関との連携をとりながら必要に応じて他事業所への連絡調整対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、その方のできる事を見極めて体調にあわせ、家事のお手伝いをして頂き、労いの言葉をかけながら充実感をえられるような支援を行い、共に暮らせるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	心配事、良かったことを連絡し、話し合い共有し絆を大切にしながら支援している。訪問時には気軽に話をして頂き、情報収集をして共有しながら共に支えていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで関わってきた人の訪問や、外出などの関わりは大切である事を入居時に説明を行い、馴染みの美容院に通ったり、友人の訪問があったり、自宅への外泊などで馴染みの関係が途切れないような支援に努めている。	馴染みの関係持続は従来どおり支援している。手紙出し、携帯電話がけ、選挙投票、などのお手伝いなど、月1回家族と温泉に行っている入居者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その人、の表情・相性などを十分に見極め、座る位置を替えたりし、良好な関係を築けるよう職員が間に入り、利用者同士が関わり合い、支えあえるような支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去・契約終了してからも、その後の経過をフォローし、お見舞い必要に応じて相談・支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活様子から、日常会話の中から思い・要望を把握し職員間で共有、アセスメントツールを利用して希望、意向の把握に努めている。	3ヶ月に1回のモニタリングと本人の話を聴いている。ずっと本人の面倒をみて欲しいとの家族の要望に時間が経てばホームに馴染むからと納得して戴いた。入居者の要望で野草、せりなど採取にも行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、友人、親戚の方の訪問時、入居前の担当ケアマネの情報を得たり、本人、行政の協力を得ながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日勤者がバイタル測定を行い、その日の職員が表情、行動、言動を把握して申し送り、ミーティングで情報交換をして勤務者全員で把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に1度のモニタリング、24時間シートを活用し、職員間で検討、本人、家族の意見を聞き主治医の意見を参考にしながら、担当者会議を開き介護計画に繋げている。更新時は本人、家族からの意見・要望を求めて計画に繋げている。	センター方式を活用し担当が入居者の全身図を手書きし、歯、腰、言葉等から心身状況を把握し職員間で検討、主治医にも相談し担当者会議を開催し、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録、引き継ぎ必要に応じケアカンファレンスを行い、職員間で情報共有しながらケアプラン内容の実施評価を行い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様、家族からの、その時々要望がうまれた時は、状況、体調も考慮の上家族様、他サービス事業者とも十分に検討し、柔軟な支援ができるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	塩釜長寿社会課、地域住民、民生委員、主治医、薬剤師の方々から情報アドバイスをいただき、安全に豊かな暮らしができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族様の意向に添って、入居前のかかりつけ医との関係を崩さないように、通院できている。家族様の都合により、職員が通院介助を行うことで、適切な医療を受けられるように支援している。	入居者および家族の意向を尊重し、入居者全員がかかりつけ医である。希望する医療機関(歯科は1人だけ佐々木歯科)による受診支援は出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中で体調の変化を把握し、管理者へ報告、相談、緊急性の判断をして、医療機関へ報告する形で支援している。訪問看護が必要な時は、主治医との連携、指示の下で看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院された際は、適宜に病院関係者との情報交換や相談をしながら、安心して治療を受けて、出来るだけ早急に退院できるよう病室に伺っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については、入居時から説明、話し合いを行い、できる事とできない事を理解して頂き、主治医とも相談、共有し家族様の希望される施設や医療機関に入所、入院できるよう相談・連絡の支援を行っている。	「看取りに関しての指針」は入居申し込み時に事業所は家族と十分話し合っており、主治医とも共有している。経過は家族会にも其の都度伝えて了解を取っている。昨年は2名を看取った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回、救急救命講習を受け、心肺蘇生AEDの使い方、急変時の対応方法を学習、一人1人が実践に繋げられるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている	利用者様、地域住民の方々参加していたが、年2回の消防訓練を行っている。各月で消防避難訓練、災害時避難訓練を独自で行っていつでも動けるように努めている。	町内会や近くのカンパニーの方々が加わり年2回の総合訓練を、事業所独自でも火災、震災訓練を毎月実施している。昨年念願のスプリンクラーを設置した。備蓄の見直しを行い、5年間保存できる飲料水を確保した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人1人の人格を尊重し、排泄時は他者に分からないように声がけしたり、否定した声がけや命令的な言葉かけをしないように努めている。	入居者には丁寧に名前呼びかける。排泄は言葉や仕草を把握してそれとなく誘導している。口紅、外出時の服装など、職員は入居者の気持ちの切り替えに気配りを怠らないように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が、職員に遠慮せず本人の希望を表せる雰囲気作りをしたり、言葉にすることが難しい方には、いくつかの選択肢を用意し声がけしながら、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人1人の体調・状況に合わせ、その人にあったペースを大切に、外出、外食など希望にそった支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の希望に合わせて選んでもらったり、職員と一緒に選んでいただいている。馴染みの美容院に行ったり、訪問美・理容を利用できるように支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士確認のメニューに合わせ、地域の八百屋店、魚屋店、肉店から食材購入し、準備は職員が行い一緒にテーブルで同じものを食べて頂き、できる方には職員と一緒に片づけをしていただいている	毎月栄養士に来てもらい、職員が献立を作成している。野菜は地産地消に徹している。夏はミニ菜園で栽培した野菜を使っている。調理の盛り付け、食事、片付けは職員・入居者で行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食事量、水分摂取量を確認・記録を行い、体調にあわせ指示どおりにメニュー変更したり、一人ひとりの状態にあわせ栄養のバランスをとれるよう、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きの声がけを行い、できる方には、自らやっただき、難しいかたには介助で行い、都度、口腔内チェックを行い状況によっては、訪問歯科医、かかりつけ医に相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活かし、一人1人の排泄パターンを掴み、その人その人の排泄のサインを見逃さないようにして、トイレでの排泄ができるよう支援している。	就寝時のおむつは2人だけで、日中はリハビリパンツで他の入居者は布パンツ使用。夜間は2人がポータブルトイレを使用し、車いすの入居者は転倒防止マットを敷いたり、ベッドには職員に知らせる鈴を取り付けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材で野菜を多く摂れるメニューにしたり、オヤツに寒天、昼食にヨーグルトメニューを提供している。ラジオ体操やリハビリ体操をして便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日は決めていないが、時間は午後になることが多いが、希望に合わせた入浴ができるよう努めている。拒否がある方には、別の職員が関わったり、時間をずらして声がけを行い入っていただけるよう支援している。	入浴拒否者もいたが職員がうまくいったやり方を適用したり、気のあった人からの声掛け、本人の意見も十分に聞きとるなどして成功した。その人の体調に合わせてシャワー浴のみの支援もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの生活習慣にあわせてその時々横になったり、夜間も、テレビ観賞を楽しんだりしてから安眠される方にも、その方にあつた支援をしております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人1人が処方される度に薬の目的、副作用、用法を理解した上で、服用薬品名カードをファイリングをし、確認しながら配置を行っている。服薬はダブルチェックで飲み下し確認までで服薬をして頂き、服薬後の症状変化確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人1人の生活歴を大事に、日常生活の中でやりたい事をみつけたり、趣味を活かして裁縫、歌などで気分転換できるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人1人の希望、体調に合わせて散歩、美容室、外食など家族様の協力を得ながら戸外に出でかけられるよう努めている。	年一度の日帰り旅行で、家族一緒に大観荘へ行き温泉や食事を楽しんだ。昨年は塩釜のキャッスルプラザに行った。食事形態によりミキサーを持参した。散歩、ドライブ、塩釜神社の花見、港祭りなど弁当持参で行く。墓参り・外泊の個別支援もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことの大切さを理解した上で、管理は家族様が行い、日常使用するこづかい銭はホームの金庫で管理させて頂き、必要な時は見守りのもとで使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望にあわせて何時でも電話をかけたり、携帯電話を使用している方も自由に話をできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気温、湿度の管理をおこない、廊下には利用者様の制作絵を飾らしていただいたり、日帰り旅行の写真を飾っている。食堂など共有空間の直射日光で混乱を招かないよう工夫、配慮をして居心地よく過ごせるよう支援している。	灯油式の」床暖房が快適だ。浴室も暖房装置がある。加湿器もあるが乾燥気味の場合湿らせたバスタオルを要所にかけるなど工夫している。換気は1日2回実施している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂やリビングルームで、気の合う人と過ごせるようになって、独りになりたい時は、思い思いにすきな所、居室で過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用前に説明を行い、納得して頂いた上に使い慣れたタンス、鏡台、椅子、テーブルなどを配置して頂いたところに入居していただき、ご本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	本人、家族納得のうえ使い慣れたタンス、ラジオ、位牌など配置している。寝具はベッド(備品)である。床は希望により防炎加工のマットを敷いている人もいる。またカーテンも防炎加工の布地を使用している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人1人のできる事、わかる事を理解した上で、「便所」トイレ」「電気は自動でつきます」など明記し、安全に自立した生活が送れるよう工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0490300027		
法人名	株式会社 サンテック		
事業所名	清水沢あさひ園	ユニット名	2階
所在地	塩釜市清水沢3丁目11-31		
自己評価作成日	平成 24 年 12 月 12 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・毎朝、基本理念の唱和と毎月、交代でつくり上げた介護の重点に添った支援を行っております。 ・恒例の夏祭まつりには、ご近所の方々や他事業所の方、家族の方々に参加して頂き交流を図っております。また、家族参加のもとで日帰り温泉旅行を行い、いつもと違った一日を過ごしていただいております。災害時避難訓練は、法定訓練の他に独自の訓練を行い、安心して暮らしていただけるよう努めております。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成 25 年 1 月 22 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所基本理念の唱和と運営理念「奉仕・感謝・謙虚」を掲げて実践している。職員の気づきやアイデアに対して社長も参加する管理者会議を開き一つ一つ丁寧に検討し妥当であれば速やかに対処している。其のことが職員全体から大きな活力を引き出し、今後更なるケアサービス向上への道筋が予想できる。3ヶ月1回のモニタリングとセンター方式の「24時間シート、私の姿と気持ちシート」で介護計画を作成している。家族は介護計画の説明や話し合いがあることに高い評価をしている。災害対策も地域の人たちに参加してもらい年2回実施し、災害時に落ち着いて誘導できる努力をしている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 清水沢あさひ園) 「 ユニット名 2階 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員でつくり上げたものをフロアに掲示し、朝のミーティング時に唱和をおこない共有し、理念に添ったケアにあたる事の確認を行い各自認識を高めている。	全体会で決めた今年度の事業所理念「笑顔の和・チームの和・地域の和」を朝礼時、唱和、意思統一し実践している。更に一月のスローガンとしてノロウイルス等防止の「手洗い」を奨励している	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、盆踊りやおまつりのイベントに招待されたり、子供神輿に立ち寄っていただいたりしている。また事業所の夏まつりには地域の方々に参加していただき交流を深めている	入居者2名職員4名町内盆踊りに参加した。10月の秋祭にも参加した。子供みこしでは歌を歌ったお礼として、おひねりのパフォーマンスをし喜ばれた。更に地域の人から毎年野菜、味噌、干し柿などの差し入れがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方から認知症に対する質問や相談があった場合、相談や助言にあたっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括センターの方にも参加して頂き、事業所の報告、質問、前回の会議でとりあげられた検討事項についての話し合いや結果報告、意見などをいただき運営サービス質の向上に努めている	運営推進会議は年6回地域包括職員、町内会代表、民生委員、家族会代表、職員が出席し事業所の状況報告、行事等の話をし活発な意見交換をはかり、より一層良質なケアの向上に貢献している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定更新時や認定情報申請時、入居者個々の状況報告相談をおこない、適切なアドバイスをいただきケアのサービスに取り組んでいる	12月入居希望者の生活保護申請で市の担当者とは何回か折衝した結果入居が決まり、本人は安心して生活している。お陰で市の担当者から逐次適切なケアサービスのアドバイスを受ける事が出来た。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昼間の玄関施錠は行わず、身体拘束による弊害を、事業所内で勉強を行い職員かんでの共有、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	マニュアルを用いて年2回全体会議で勉強会をしている。昨年12月の入居された方は外出傾向があり、兆候を察知した職員が共に付き添い支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者施設での身体的虐待、ネグレクト、心理的虐待、経済的虐待等の要因防止の外部研修を受け、施設内で勉強会などを実施し、虐待防止に向けた取り組みをおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	施設内代表が外部研修をうけ、全体会議でフィードバックの形で全体会議の学習会を行い職員の理解を深め活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービスの内容や、契約事項、重要説明事項は、丁寧に説明させて頂き、対応可能な範囲についても理解・納得をいただいている。改訂された時は家族会で説明を行い、出席出来なかった家族には、文章で報告・理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各階に意見箱を設置しご家族、訪問者の意見を伝えてもらえるよう配慮し家族会、運営推進会議で報告、意見を求め運営に反映できるよう努めている。	苦情処理設置委員会で出来るだけ速く苦情を把握し対処・解決している。家族会での提案で避難用具の担架を購入した。運営推進会議で提案を受け2月中にハッチ式避難具を購入の予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見がでた時は、管理者がとりまとめ、週1回の管理者会議の際に報告したり、代表者からの職員に対し意見、提案、希望を求める機会があり反映できるように努めているが難しいところもある。。	社長、副社長、事務担当も加わった7人構成の管理者会議は毎週土曜日開かれるが、ここで職員要望の車椅子用体重計購入、職員親睦の場の設置や食事代負担軽減などの提案が認可された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ほぼ毎日、代表者の訪問があり、ミーティングに参加し職員の勤務状況、取り組みを把握し、やりがいをもって働けるよう環境・条件整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員にあった外部研修に参加し、職員全体会議でフィードバックし、全職員が研修時の資料をもとに学習できる形をとり、トレーニングしながらスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協ブロック集会、地域ケア会議に参加し学習会、情報交換を行い、サービスの質向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申込時の家族情報、居宅ケアマネの情報に基づき自宅訪問し、お茶飲み話から本人、家族の要望に耳を傾け、入居時は自宅訪問をした職員が夜勤となり、安心して暮らせるための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時に園内の生活状況を観て頂いた上に、本人、家族様の思い要望を傾聴し、サービス内容・重要説明事項を分かり易く説明し、納得して頂き入居初はコミュニケーションを密にして関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談、申込み時から本人、家族様の思い要望を傾聴、検討し導入を見極め、主治医療機関との連携をとりながら必要なサービスに繋げられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、その方のできる事を見極めて体調にあわせ、家事のお手伝いをして頂き、労いの言葉をかけながら充実感をえられるような支援を行い、共に暮らせるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	心配事、良かったことを連絡し、話し合い共有し絆を大切にしながら支援している。訪問時には気軽に話をして頂き、情報収集をして共有しながら共に支えていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで関わってきた人の訪問や、外出などの関わりは大切である事を入居時に説明を行い、自宅への外泊などで馴染みの関係が途切れないような支援に努めている。認知症状の進行とADLの低下状況で難しい方が多くなってきている。	馴染みの関係持続は従来どおり支援している。手紙出し、携帯電話がけ、選挙投票、などのお手伝いなど、月1回家族と温泉に行っている入居者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その人、の表情・相性などを十分に見極め、座る位置を替えたりし、職員も一緒にお茶を飲みながら利用者同士の関係がよくなるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去・契約終了してからも、その後の経過をフォローし、お見舞い必要に応じて相談・支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活様子から、日常会話の中から表情、思い・要望を把握し職員間で共有、家族様からの情報を得ながら、希望、意向の把握に努めている。	3ヶ月に1回のモニタリングと本人の話を聴いている。ずっと本人の面倒をみて欲しいとの家族の要望に時間が経てばホームに馴染むからと納得して戴いた。入居者の要望で野草、せりなど採取にも行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、友人、親戚の方の訪問時、入居前の担当ケアマネの情報を得たり、ご本人との会話の中から情報を得て今までの経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日勤者がバイタル測定、記録に残し、暮らしの中での体調の変化を、職員間で情報交換を行い把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に1度のモニタリング、24時間シートを活用し、職員間で検討、本人、家族の意見を聞き主治医の意見を参考にしながら、担当者会議を開き意見交換を行ってアイデアをだしている。更新時は本人、家族からの意見・要望を求めて計画に繋げている。	センター方式を活用し担当が入居者の全身図を手書きし、歯、腰、言葉等から心身状況を把握し職員間で検討、主治医にも相談し担当者会議を開催し、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、変化、をケース記録・申し送りノートに記録を残し、実施評価を行い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様、家族からの、その時々要望がうまれた時は、状況、体調も考慮の上家族様、他サービス事業者とも十分に検討し、柔軟な支援ができるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	塩釜長寿社会課、地域住民、民生委員、主治医から情報アドバイスをいただきながら、日々楽しく暮らせるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族様の意向に添って、入居前のかかりつけ医との関係を崩さないように、通院ができ適切な医療を受けられるよう支援している。	入居者および家族の意向を尊重し、入居者全員がかかりつけ医である。希望する医療機関(歯科は1人だけ佐々木歯科)による受診支援は出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中で体調の変化を把握し、管理者へ報告、相談、緊急性の判断をして、医療機関へ報告する形で支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院された際は、適宜に病院関係者との情報交換や相談をしながら、安心して治療を受けて、出来るだけ早急に退院できるよう病室に伺ってご本人とも面会している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については、入居時から説明、話し合いを行い、できる事とできない事を説明理解して頂き、主治医とも相談、共有し家族様の希望される施設や医療機関に入所、入院できるよう相談・連絡の支援を行っている。	「看取りに関しての指針」は入居申し込み時に事業所は家族と十分話し合っており、主治医とも共有している。経過は家族会にも其の都度伝えて了解を取っている。昨年は2名を看取った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成、年1回、救急救命講習を受け、心肺蘇生AEDの使い方を学習、一人1人が実践に繋げられるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている	利用者様、地域住民の方々参加していたが、年2回の消防訓練を行っている。各月で消防避難訓練、災害時避難訓練を独自で行っていつでも動けるように努めている。	町内会や近くのカンパニーの方々が加わり年2回の総合訓練を、事業所独自でも火災、震災訓練を各月実施している。昨年念願のスプリンクラーを設置した。備蓄の見直しを行い、5年間保存できる飲料水を確保した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人1人の人格を尊重するための学習会を行い、職員の意識向上を図り排否定した声かけや命令的な言葉かけをしないように、日々の対応に努めている。	入居者には丁寧に名前呼びかける。排泄は言葉や仕草を把握してそれとなく誘導している。口紅、外出時の服装など、職員は入居者の気持ちの切り替えに気配りを怠らないように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が、職員に遠慮せず本人の希望を表せる雰囲気作りをしたり、言葉にすることが難しい方には、その時の表情で読み取ったりして、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人1人の体調・状況に合わせ、その人にあったペースを大切に、外出、外食など希望にそった支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定がし難い利用者様には、その時々状況に合わせて職員と一緒に選んでいただいている。訪問美・理容を利用できるように支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士確認のメニューに合わせ、地域の八百屋さん、魚店、肉店から食材購入し、調理の準備や片づけを職員と共にやっている。誕生日の時はその方の好みを聴き、希望に添ったメニューにしたり工夫をしている。	毎月栄養士に来てもらい、職員が献立を作成している。野菜は地産地消に徹している。夏はミニ菜園で栽培した野菜を使っている。調理の盛り付け、食事、片付けは職員・入居者で行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食事量、水分摂取量を確認・記録を行い、体調にあわせ指示どおりにメニュー変更したり、一人ひとりの状態にあわせ栄養のバランスをとれるよう、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きの声かけを行い、できる方には見守りでやっていただき、難しいかたには介助で行い、就寝前は、義歯を洗浄液に保管させていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活かし、一人1人の排泄パターンを掴み、その人その人の排泄のサインを見逃さないようにして、トイレでの排泄ができるよう支援している。	就寝時のおむつは2人だけで、日中はリハビリパンツで他の入居者は布パンツ使用。夜間は2人がポータブルトイレを使用し、車いすの入居者は転倒防止マットを敷いたり、ベッドには職員に知らせる鈴を取り付けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材で野菜を多く摂れるメニューにしたり、オヤツに寒天、昼食にヨーグルトメニューを提供している。ラジオ体操やリハビリ体操をして便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日は決めていないが、時間は午後になることが多いが、希望に合わせた入浴ができるよう努めている。拒否がある方には、別の職員が関わったり、時間をずらして声がけを行い入っていただけよう支援している。	入浴拒否者もいたが職員がうまくいったやり方を適用したり、気のあった人からの声掛け、本人の意見も十分に聞きとるなどして成功した。その人の体調に合わせてシャワー浴のみの支援もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの生活習慣にあわせてその時々横になったり、夜間も、テレビ観賞を楽しんだりしてから安眠される方にも、その方にあつた支援をしております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人1人が処方される度に薬の目的、副作用、用法を理解した上で、服用薬品名カードをファイリングをし、確認しながら配置を行っている。服薬はダブルチェックで飲み下し確認までで服薬をして頂き、服薬後の症状変化確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人1人の生活歴を大事に、日常生活の中でやりたい事をみつけたり、趣味を活かして裁縫、歌などで気分転換できるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人1人の希望、体調に合わせて散歩、美容室、外食など家族様の協力を得ながら戸外に出でかけられるよう努めている。	年一度の日帰り旅行で、家族一緒に大観荘へ行き温泉や食事を楽しんだ。昨年は塩釜のキャッスルプラザに行った。食事形態によりミキサーを持参した。散歩、ドライブ、塩釜神社の花見、港祭りなど弁当持参で行く。墓参り・外泊の個別支援もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことの大切さを理解した上で、管理は家族様が行い、日常使用するこづかい銭はホームの金庫で管理させて頂き、必要な時は見守りのもとで使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望にあわせて何時でも電話をかけたり、携帯電話を使用している方も自由に話をできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気温、湿度の管理をおこない、廊下には利用者様の制作絵を飾らしていただいたり、日帰り旅行の写真を飾っている。食堂など共有空間の直射日光で混乱を招かないよう工夫、配慮をして居心地よく過ごせるよう支援している。	灯油式の」床暖房が快適だ。浴室も暖房装置がある。加湿器もあるが乾燥気味の場合湿らせたバスタオルを要所にかけるなど工夫している。換気は1日2回実施している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂やリビングルームで、気の合う人と過ごせるようになって、独りになりたい時は、思い思いにすきな所、居室で過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用前に説明を行い、納得して頂いた上に使い慣れたタンス、鏡台、椅子、テーブルなどを配置して頂いたところに入居していただき、ご本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	本人、家族納得のうえ使い慣れたタンス、ラジオ、位牌など配置している。寝具はベッド(備品)である。床は希望により防炎加工のマットを敷いている人もいる。またカーテンも防炎加工の布地を使用している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人1人のできる事、わかる事を理解した上で、「便所」トイレ」「電気は自動でつきます」など明記し、安全に自立した生活が送れるよう工夫している。		